



『筑波大学技術報告』No.37 の発刊によせて

著者	三明 康郎
雑誌名	筑波大学技術報告
巻	37
ページ	i
発行年	2016-03
URL	http://hdl.handle.net/2241/00147096

『筑波大学技術報告』No.37 の発刊によせて

本学では、技術職員の業績や活躍を広く学内外に紹介すること等を目的として、『筑波大学技術報告』を長年継続して発刊してきており、本年度は No.37 が発刊される運びとなりました。

本報告書は「第 16 回筑波大学技術職員技術発表会」(平成 29 年 3 月 8 日開催)における発表論文等及び技術職員からの投稿論文により構成されております。これは、教育・研究支援活動に携わる多忙な日常業務の中で、本学の技術職員が創意工夫をこらした、長時間にわたる研鑽や努力の成果報告です。

本発表会は、準備段階において技術発表会への積極的な参加・発表の奨励・啓発や学外者の参加を呼びかける広報活動など技術発表会の開催や運営に関して大きな努力が払われてきています。その努力の賜物と思いますが、今回の発表会では、理工学から生命、医学という広い分野において、教育から研究、情報、管理運営という幅広い内容について、さらに超ベテランから採用 1 年目の方の発表など実に幅広の構成となりました。本学の技術職員らしい豊かな内容となったと思います。

さて、多くの技術職員が協力して進める全学的活動として「夏休み自由研究お助け隊」があります。平成 16 年から一部の技術職員の方々の自発的な社会貢献活動として始まりましたが、その後、多数の技術職員の方々の参加協力によって多くの実績を上げています。「夏休み自由研究お助け隊」に参加した生徒が自由研究に関わるコンテストで受賞するなど学外の認知度も高まっています。本年度は全学技術委員会などで「夏休み自由研究お助け隊」の位置付けについて議論を行い、「技術発表会」にならった実施体制・運営体制の再構築をいたしました。本技術発表会についても、目的と実績を見ながら効率的に PDCA サイクルをまわしていきたいと思っています。大学を取り巻く環境が大きく変わる中で、技術職員の活動のあり方や体制についても、しっかり議論し、合理的な見直しを進めていく必要があります。

本報告書の刊行により、本学技術職員の業績を広く学内外に紹介し、各方面より忌憚のない御意見や、御指導、御助言、激励等を頂くことができればと願っています。技術職員の育成と技術力を一層向上させるために、各方面の御支援をよろしくお願い致します。

平成 29 年 3 月 筑波大学 副学長・理事(研究担当) 三明康郎